

§ 2017年度秋季大会報告

1. 2017年度秋季大会は9月4日(月)～6日(水)に信州大学農学部において盛会裏に行われた。4日(月)には公開シンポジウム「鶏の育種改良の方向性と課題」が開催された(参加者約100名)。また、編集委員会、産学交流促進委員会、国際交流委員会、将来構想委員会、若手幹事会、理事会が開催された。5日(火)には一般講演、評議員会、常務理事会、総会、総会後に日本家禽学会賞・日本家禽学会奨励賞・優秀論文賞・優秀発表賞授与式、学会賞・奨励賞受賞講演が行われた。6日(水)には国際シンポジウム「Leading-Edge Research on the Poultry and Animal Sciences」が開催された(参加者約80名)。

(大会委員長 小野珠乙会員、一般講演39題、参加者約130名)

2. 理事会・評議員会および総会で報告、決定された主な事項は以下のとおりである。

(1) 大会関係

○2018年度春季大会は、東京大学において3月30日(金)に開催される予定である。

(大会委員長 高橋和昭会長)

○2018年秋季大会は、東北大学で開催される予定である。

(大会委員長 豊水正昭会員)

(2) 賞関係

○選考委員会(委員長、喜多一美会員)における選考、およびメール会議による理事会・評議員会の審議・承認を経て、日本家禽学会賞にはVishwajit Sur Chowdhury会員(九州大学)、対象業績「暑熱暴露下の幼雛の摂食行動と体温制御に関する研究」、および日本家禽学会奨励賞には南都文香会員(東北大学)、対象業績「飼料用米給与時における鶏の暑熱感応答」にそれぞれ授与された。

○The Journal of Poultry Science優秀論文賞(平成28年、2016年)

編集委員会の選考および理事会の審議・承認を経て、優秀論文賞は以下の2編に決定された。

1. Expression of Prolactin Receptor on the Surface of Quail Spermatozoa.

Gen Hiyama, Shusei Mizushima, Mei Matsuzaki, Yoshinobu Ichikawa, Norio Kansaku and Tomohiro Sasanami

The Journal of Poultry Science Vol.53(2): 157-164, 2016.

2. Effects of a Whole-grain Paddy Rice Diet on the pH Distribution in the Gizzard and Retention Time of Digesta in the Crop of Broiler Chicks.

Mari Nishii, Masaharu Yasutomi and Yoshiaki Sone.

The Journal of Poultry Science Vol. 53(3):181-191, 2016.

○平成28年度秋季大会優秀発表賞

審査員の評価に基づいて常務理事会で審議した結果、2017年度秋季大会では、第1会場：寺田拓実会員(広島大院生物圏)「ニワトリ胚とヒナ腸管におけるトリβ-ディフェンシン(AvBD)2の局在と成長に伴う変化」、庄司優亜会員(農工大院農)「暑熱環境下の採卵鶏における卵生産関連脂質代謝の変動」、第2会場：加藤侑会員(農工大院農)「ブロイラー初生ヒナ飼料へのグルタチオン添加が骨格筋内の酸化ストレスとその後の増体へ及ぼす影響」およびRakhi Chowdhury会員(信州大農)「高いフィターゼ活性を持つ蕎麦飼料給与によるブロイラーのフィチン態リン利用性の向上」にそれぞれ授与することが決定され、総会終了後に授与式が執り行われた。

○平成30年度日本家禽学会技術賞へ1件の推薦があった。選考委員会を立ち上げ、現在選考中である(委員長後藤直樹会員)。

(3) 日本農学会関係

○平成29年度日本農学会大会は平成29年4月5日(水)に東京大学山上海館で開催された。

○平成29年度日本農学会シンポジウムは平成29年10月14日(土)に東京大学弥生講堂において、「大変動時代の食と農」というテーマで開催される。

○平成30年度の本年度の本学会からの日本農学進歩賞への推薦はなかった。また、日本農学賞への推薦依頼を受け付けている。

(4) 日本学術会議関係

○第 23 あるいは 24 期日本学術会議畜産学学科会から協力依頼があれば対応することとした。

(5) 産学交流促進委員会関係

○平成 29 年 9 月 4 日 (月) に公開シンポジウム「鶏の育種改良の方向性と課題」を開催した。

○賛助会員の企業案内等の配架を継続して行った。名古屋で 2018 年 5 月 30 日から開催される国際養鶏養豚総合展 (IPPS) において、シンポジウムの内容などを盛り込んだ賛助会員募集のパンフレットを作成し、頒布することを計画している。

○平成 30 年度秋季大会で公開シンポジウムを東北大学で開催する予定である。鶏病研究会との合同シンポジウムも検討している。詳細は決定していないが、現場で起きている病気や耐性菌に関する内容を検討している。

(6) 将来構想委員会関係

○大会の開催に関して 2 年で 3 回 (秋の開催は畜産学会開催の年) の開催案を検討している。シンポジウムに関しては、不定期で開催することを検討している。

○個人会員と賛助会員の増加に関して、新聞等に掲載することや関連企業にお知らせを送るなどの案を検討している。また、学生会員に対して企業説明等の養鶏産業をアピールする場を設けることを検討している。

○将来的な国際学会の開催を国際交流委員会および若手幹事会と議論することを始めた。

○和文誌の活性化を行うために、県職員の報告や賛助会員の広告、高校生の発表などの新たな試みを行うことに関して検討を進めている。

○学会の宣伝として現在、6 社の HP に日本家禽学会の HP のバナーを掲載している。また、高校生会員を新設し、高校生の発表を通じて新たな会員獲得と学会の活性化を促進する。

○大会の開催と高校生会員に関しては、次期春季大会において、理事会および評議員会で議論を行う。

(7) 国際交流委員会関係

○WPSA ニュースレターに日本家禽学会活動記事を定期的に掲載している。また、記事内にて、海外会員枠のアナウンスと入会の呼びかけを行っている。また、将来の

国際会議の開催に向けての検討を始めた。

○国際シンポジウム「Leading-Edge Research on the Poultry and Animal Sciences」を 2017 年度秋季大会で開催した。

主催は日本家禽学会および日本畜産学会、共催は信州大学農学部とした。WPSA へ補助金申請を行うため、要旨には WPSA のロゴを使用した。

○第 11 回アジア太平洋家禽学会 (APPC2018) はバンコクで、3 月 25 日 - 27 日に開催される。

○第 26 回世界家禽会議 (WPC2020) はパリで、8 月 16 日 - 20 日に開催予定である。

○若手研究者の国際会議参加を促すため、渡航補助金の支給件数を減らし、一件当たりの支給金額を渡航先に応じて増加させることとした。APPC2018 から適応する。補助金の支給には JPS への投稿が必須条件であるが、補助申請を行いやすくするための条件緩和について協議を進めている。

(8) 広報委員会関係

○科研費の採択に伴い、JPS への投稿を促すためのリーフレット等の作成が求められており、編集委員会や若手幹事会と連携して作成する。

○学会 HP の脆弱性が指摘され、バージョンアップを行う予定である。また、PMC 申請のために複数の項目を HP に掲載する必要があり、これに関して業者委託を含め、作業を進めている。

○アクセス数増加のために、直感的にわかりやすい HP 構成とリンクを行う必要があり、QR コードの使用などの検討を始めることにした。

○国際会議などの HP に JPS のバナー広告を掲載するなどの広報に関する検討を行うことにした。

(9) 若手幹事会関係

○平成 29 年度春季大会でランチョンセミナー「題名：鶏卵の加工技術」を開催した (3 月 30 日 (木)、出席者 約 60 名)。

○平成 29 年度秋季大会で畜産学会と合同でサイエンスナイトを開催する予定であったが、畜産学会主催として行い、家禽学会員も参加できるという形式で開催した。

○平成 30 年度春季大会でランチョンセミナーを開催する予定である。

○若手幹事会は時限付きの委員会として発足したため、

今期で終了となる。常置委員会として継続していくかを検討した結果、常置委員会とはせず、無期限で原則2年ごとにメンバーの入れ替えを行い継続していくこととした。活動内容としては、自由な発想のもと、若手研究者の交流会の開催や学会への提案などを行う。

○広報委員会と連携し、家禽学会を宣伝するリーフレットを作成する。

(10) 家禽学用語集編集委員会関係

家禽学用語集第1版を編集して学会ホームページに掲載し、現在、会員からの修正を継続して受け付けている。今後、出版の方向を検討している。

(11) 会員の移動

○平成29年9月1日現在の会員状況

(平成29年2月末日からの増減)

名誉会員	12名	(+1)	
A会員	114名	(+1)	(-8)
B会員	192名	(+18)	(-19)
A学生会員	18名	(+10)	(-7)
B学生会員	34名	(+19)	(-28)
Aシニア会員	3名	(+1)	
Bシニア会員	8名	(+2)	(-1)
外国人特別会員	4名	(+2)	
合計	385名	(+54)	(-63)
A賛助会員	23社		(-1)
B賛助会員	10社	(+1)	
賛助会員合計	33社	(+1)	(-1)
総計	418	(+55)	(-64)

(12) その他

○非常勤職員就業規則の改正に関して

ここ数年、業務が多様化および増加し、かつ複雑化・高度化している現状を鑑みて、これまでの規則（日本家禽学会事務局非常勤職員就業規則）では処理しきれない状況が生じていた。完全時給制でフレックス化することを目的に、就業規則の改正案を作成し、理事会におけるメール審議により認められ、運用を開始した。

○科研費の採択と課題の実行に関して

平成29年度科学研究費補助金・国際情報発信強化(B)に本学会から提出した「家禽産業研究領域のトップジャー

ナルを目指した国際情報発信力強化」が採択された。本分野のトップジャーナルである米国家禽学会誌(Poultry Science, IF=1.685)と同列の国際情報発信力を実現することを目的として本事業を進めている。

○編集関係および広告関係の規約の改正に関して

規定や規約の改正の原案を作成中である。改正した規約等はHPに掲載する予定である。

○外部監査に関して

外部監査を置くことが推奨されていることから、会員以外の方に外部監査をお願いすることが了承された。科研費に記載した年次計画に伴い、平成29年度から委嘱することとした。

○高校生のポスター発表

平成29年度春季大会（神戸大学）において、大会実行委員会より高校生のポスター発表開催が提案され、これを開催した。合計5校（発表者16名）の発表があり、盛会裏に行われた。学会からは発表の証明書および感謝状を贈呈した。

○今後の大会開催予定

2018年度春季 東京大学
2018年度秋季 東北大学
2019年度春季 麻布大学
2019年度秋季 岩手大学

○オープンアクセスに関して

CCライセンスとしてCC BY NC SA4.0（表示-非営利-継承4.0国際；原作者のクレジットを表示・営利目的での二次利用は許諾が必要・改変可能、しかし元のライセンスも公開）を利用することにした。

(13) 編集関係

○The Journal of Poultry Science誌第54巻2号～3号、日本家禽学会誌54巻J1号～J2号、ニュースレター20号、講演要旨2冊（春季大会号・秋季大会号）を発行した。

○The Journal of Poultry Scienceの2016年インパクトファクター(IF)が公開された(IF=0.513→0.771)。IFをさらに上昇させる方策を検討している。

- JPS の編集に関する規定や規約の改正を進めている。
- 英文校閲を開始し、JPS の英文の質を上げる取り組みを開始した。
- 論文を HTML 化して J-stage に掲載することを開始する予定である。

(14) 会計関係

- 平成 29 年度の会計は、予算に従い順調に消化されていることが紹介された。
- 科学研究費補助金を国際情報発信強化の科目で提出し、採択されたため、新たな予算管理として別に会計を立ち上げた。

§ 2017 年度日本家禽学会賞および同奨励賞候補者の募集について

2018 年度両賞の受賞候補者推薦を募集している。締め切りは 2017 年 12 月 29 日（金）で、期日までに選考規程を参照して候補者の推薦をお願いしたい。なお、奨励賞に

については 2018 年 4 月 1 日現在において、満 40 歳以下の方が対象となっているので、ご注意いただきたい。

§ 2018 年度（一財）旗影会研究助成募集要項について【研究助成の対象】

1. 一般助成（以下の分野に関する研究）
 - a) 畜産（生産および加工）
 - b) 農産（生産および加工）
 - c) 食品工業（食品工学、食品化学、食品機能、食品衛生、調理科学など）
2. 特別助成
一般助成に示す分野のうち、タマゴに関する研究

【助成金額および採用予定件数】

一般助成	100 万円／件	40 件程度
特別助成	200 万円／件	10 件程度

【応募期間】

2018 年 12 月上旬～2019 年 1 月 31 日（水）※必着
詳しくは下記HPを参照してください。

<http://www.nakashima-foundation.org/kielikai/>